



木津温泉駅のホームの足湯



広く知られている京丹後市の木津温泉は、かつて天平の世にこの木津を訪れた名僧行基に発見されて 1200 年の歴史を持ちます。温泉が湧き出たところ故に、人々は古くからこの地を「温泉(おんせん)」と呼んでいました。そして、鉄道が敷かれた昭和の初期(昭和六年)、周辺の地域から住民が集まり住み始めたのがこの地区(新興地)のきっかけのようです。当初は3戸ほどが移り住んだと云われています。そして、この地が「シラサギが生息していた原野」であった所から、この温泉は「シラサギの湯」と呼ばれて親しまれ、近年までその湯元で大衆浴場として賑わいだ「しらさぎ荘」跡の建屋も、今では静かに当時を偲ばせています。

木津地区の紹介

温泉区



地区の情報
 世帯数：26 世帯
 人口：67 人
 隣組数：2 組
 平成 25 年 12 月末



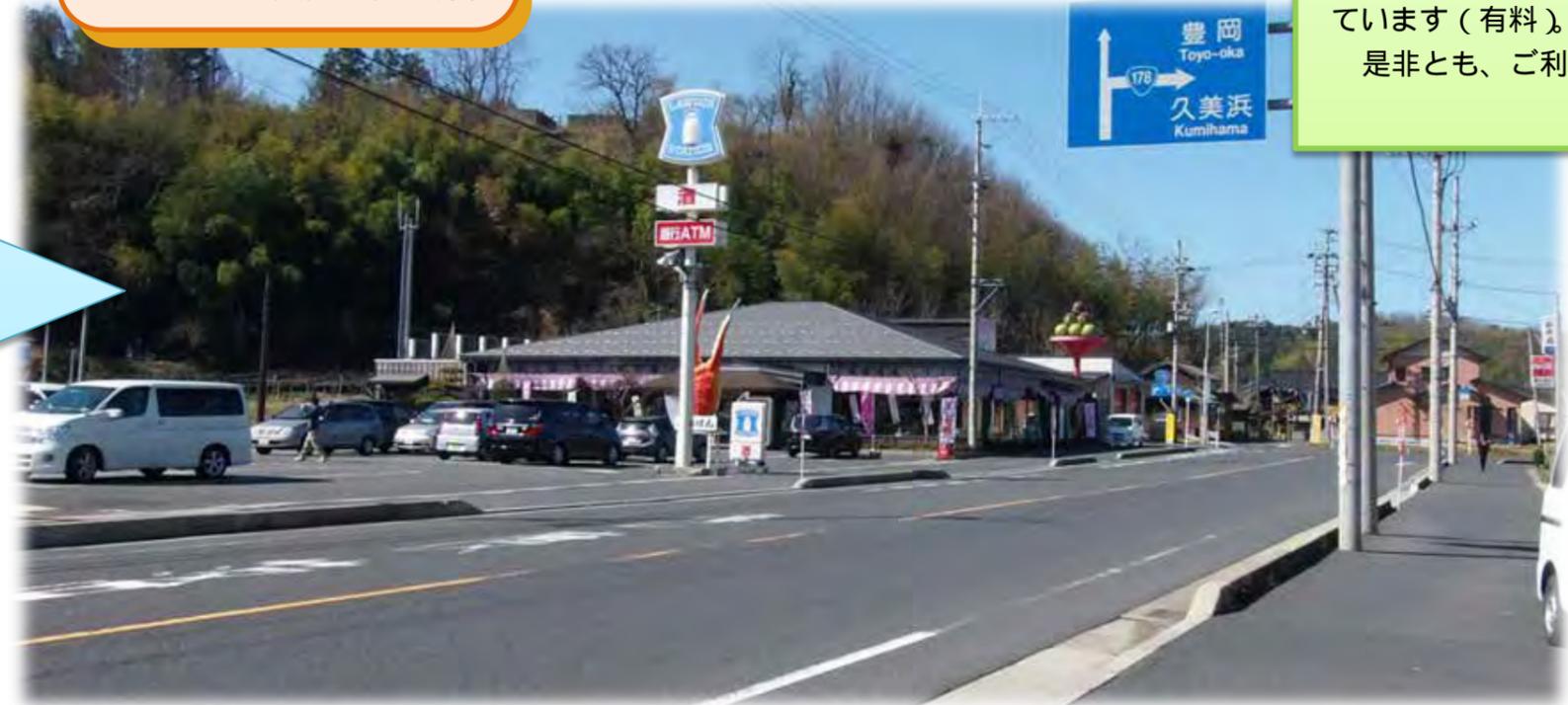
既に移転された木津温泉「天然温泉浴場」の跡で、移転先は隣の中立区の小学校跡地の「高齢者すこやかセンター」(60歳以上の方のみの利用施設)です。一般の方は、温泉区の旅館業者さまで入浴場を用意されています(有料)。是非とも、ご利用ください。



木津温泉駅の看板より

木津温泉駅の足湯
 平成3年に、それまで「丹後木津駅」という駅名でしたが「木津温泉駅」と改名しました。豊富な温泉資源は温泉区、中立区へその湯水を、パイプを設置して希望のあるお家へ供給しています(温泉管理組合)。そして木津温泉駅ホーム内には源泉掛け流しの湯船で、観光客などに「足湯」を楽しんで頂くためサービスを行なっています。

近年においては、観光ブーム(隣接する浜詰地区などの観光産業)の中で、この温泉区の国道沿いは驚くほど変わりました。道路の拡幅に始まり、他地区からの企業の進出等から、道路わきの水田光景は一変しました。そして、コンビニエンスストアも出店され、灯りの消えない道路周辺になりました。



近隣の浜詰地区も、カニ料理等の観光客で賑わって久しいですが、この木津温泉地区も過去は賑わいで、沢山の温泉客が出入りされていたと云われています(旅館家人のお話)。そして、そんな昔を懐かしみ、再びそんな賑わいだ場所になることを願っていると話しておられました。
 この温泉の湯はまた、古より皮膚病の治療に効果があると云われ、多くの方が訪れたと聞きます。また、肌に湿疹を患せた幼児を連れて、この温泉を利用した方も多数おられました。